

第247回原医研セミナー

第12回放射線災害・医科学研究 機構・拠点研究推進ミーティング

以下のとおり開催いたしますので、ご参加くださいますよう、ご案内いたします。

開催日時：2023年8月22日（火）17時30分～

開催方法：オンライン

接続先：Zoom(ミーティング)ID：890 6191 5257

Zoom URL：

<https://us02web.zoom.us/j/89061915257?pwd=Uk93L2JWWDJ3dnFkYmkvSjFGN21DZz09>

Zoom パスワード：538773（上記 URL をクリックして参加する場合は入力不要です）

タイトル：E6 領域のアミノ酸配列に基づいた新たな HPV リスク分類法

発表者：長崎大学 病院産婦人科 大学院生 新谷 灯先生

α -human papillomavirus: α -HPV は粘膜に感染し、コンジローマや異形成、子宮頸癌を誘発する。これまでに 120 以上の遺伝子型が同定され、疫学的研究に基づいてリスク分類が行われてきたが、半数以上は未分類である。そこで我々は α -HPV を分子系統的に分類できるアミノ酸を特定し、新たなリスク分類を行うことを試みた。参照配列が公開されている 64 の α -HPV を対象に Multiple Sequence Alignment (MSA) を行い、リスクに関連するアミノ酸を特定した。これを E6 gene risk discriminative amino acids: E6-RDAAs と定義し、これを用いた新たなリスク分類法を E6-RDAA 法と命名した。次に、新たなリスク分類法の妥当性を評価する目的で、子宮頸部異形成、子宮頸癌患者を含む集団を前向きに観察して転帰を調査した。患者 252 名より子宮頸管粘液 325 検体を採取して HPV DNA を抽出し、HiSeq 2500 system でシークエンシングを行った。この分類法を用いてリスク分類した HPV 型は、臨床転帰と有意に関連していた (pearson's chi-squared test、 $p=0.0002808$)。子宮頸癌に至った例では E6-RDAA 法で新規に HR-HPV に分類された HPV が検出された。(発表者：新谷灯、濱口陽、三嶋博之、長谷川ゆり、吉浦孝一郎、三浦清徳)

タイトル：医療系学生による健康教育イベントの被災地での開催

-来場者にとっての意義と学生への影響-

発表者：福島県立医科大学 医学部細胞統合生理学講座 医学部 5 年生 楯 和馬先生

【背景】医療系学生にとって臨床実習は実践的経験と対話能力向上に重要である。今回、被災地を中心に健康教育イベントを開催し、アンケート調査を行った。本発表では来場者にとっての意義と学生への影響を示す。

【方法】福島県立医科大学と相馬看護専門学校の学生が県内 14 箇所で健康教育イベントを開催した。来場者の内 306 名の属性、避難経験、イベントへの評価や自由記述欄を含むアンケートを、学生の内 33 名から学習への影響などを問うアンケートを集計し、解析した。

【結果】広く来場者から高評価を得られたが、属性ごとに有意差の有無が見られた。学生の回答では、項目間の相関が大学間で共に強い、ないし差がある組み合わせが見られた。

【考察】学生にとって健康教育イベントの実施は学習の理解度・効果の向上、そして実践的な対話能力の習得も期待できる。こうした活動が患者と医療従事者間の信頼関係向上、ひいては健康寿命の伸長に役立つ可能性に期待する。